

## 支援事例 ケース10

### 相談者

埼玉県春日部市在住 60代 女性 無職 2010年6月から入居

### 【相談内容】

亡くなった夫の遺産とひとり娘からの仕送り(6万円)で生活していたが、貯蓄を使い果たし、娘からも離婚して母子家庭になるとのことで仕送りを止められてしまった。

相談の2ヶ月前に生活保護の申請に行ったが、専業主婦で長期にわたり働かなかったので、まずは就職活動をし、自活するようにと断られた。その後、仕事が見つからないので再度相談に行ったが、同様の理由で生活保護の申請ができなかった。

家賃の支払いどころか生活の目処も立たず、今後どうしたら良いか分からず連絡しましたとの相談を受けました。

### 【対応内容】

就労意欲の点では問題ありと捉えられますが、年齢が60代半ばであることと、今まで専業主婦で就業経験が全くないこと、唯一の娘からの金銭的援助がないことを考慮すると、一人で自活するには非常に厳しい状況に見えました。夫に蓄えがあったにも関わらず年金の受給資格がなく、相談時は2~3千円程度の所持金しかなかった為、緊急事態と感じ、相談者と同行して生活保護の申請を行なうことを提案しました。最初は、どうせ断られるし、(役所の人)怖くて行きたくないと言っていました。数時間にわたって根気強く説得し、「一緒なら役所に相談に行く」との回答を頂きました。翌日、同行して相談者の生活の困窮具合を説明し、間もなく生活保護の受給が決定しました。

### 【入居者様の声】

娘から、これ以上の支援は無理と断られ、生活保護も受けられないとなった時は、目の前が真っ白でどうしていいかわからず途方にくれていました。

専業主婦を理由に今まで働くことから逃げてばかりで、途方にくれていた私を相談員の方は根気強く説得してくれて、感謝しています。あの後一緒に同行してくれなかったら今頃どうなっていたのか想像が付きません。本当にありがとうございました。